平成17年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 提案機関名 農業振興課

1 7

記入不要

IYSV の簡易同定法の開発と本県における発生生態の解明 要望問題

要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模(面積、数量等)】

【背景】

最近トスポウイルスによる野菜・花きの病害虫が多発し、対策に苦慮している。対策確立の ための第1歩は原因ウイルスの特定であるが、現状では農総研農業環境部に同定を依頼し、検 定植物や PCR により種類を特定してもらっている。昨年より市販の検査紙により TSWV,INSV については現場で検定が可能になりつつあるが、昨年より本県にも発生した IYSV は現在のところ現場レベルで検定する簡易な手法はない。このため、現場で簡易に検定する方法を開発す るとともに、本県での発生生態を解明することが求められている。

【内容】

- IYSV の迅速かつ簡易な検定法の開発
- IYSV の中間寄主の特定と県内の分布状況について
- 被害発生作物の特定と症状の蓄積

【栽培面積】

県内の野菜・花き農家全体

解決希望年限

1年以内

2~3年以内

4~5年以内

5~10年以内

研究対応区分

研究所対応

委託研究

共同研究

その他

対応を希望す る研究機関名

農業総合研究所(畜産研究所

根府川試験場 水産総合研究所(

三浦試験場 内水面試験場

津久井試験場) 相模湾試験場)

自然環境保全センター

ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名

農業総合研究所

部

署: 農業環境部

対応区分

実施(実施中 継続検討 実施済

調查指導対応

現地対応

実施不可

試験研究課題名

病害虫の診断・同定及び防除対策の確立

(3) 難防除病害虫に対する防除法の確立

対応の内容等

TYSV 等トスポウイルスによる病害の診断・同定に関しましては上記課題にて取り組んで

1の IYSV の簡易同定技術の開発につきましては、RIP 検定等の市販の検査紙はかなりの技術 レベルにあり同等のものを当所で開発するのは有益とは思われません。これまで通り、検査紙 等で同定できないウイルスは当所に持ち込みいただき生物検定・RT-PCR 等で対応いたしま す。IYSV と診断・同定された場合は病原に対応した防除法についての情報ををお伝えします。 2、3 につきましては上記課題にて現在取り組んでおります。情報等についてもお伝えして行 きます。

<u>解決予定年限</u>

1年以内 (2~3年以内)

4~5年以内

5~10年以内

備考